

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
発行日 毎月1日  
令和5年9月号

野菜ニュース



## 千葉県のいちご生産者ネットワークの取組について

公益社団法人千葉県園芸協会  
産地振興部 主事 石井 陸登

千葉県いちご組合連合会では、これまで生産技術の向上、出荷販売の改善、優良品種及び種苗の斡旋など、本県いちご栽培の振興に資する活動を行ってきましたが、今後は、新規参入者の加入促進を図り、若い生産者の経営発展を促す取組を進めます。

### 1. はじめに

千葉県のいちご生産は、観光・直売、市場出荷と様々な形態があるのが特徴で、令和3年産出額は63億円(全国第10位)です。千葉県内のいちご生産者で構成される千葉県いちご組合連合会(以下「いちご連」)は、県内いちご生産者間の情報交換、生産技術研修会や、販売促進活動を行い、いちご栽培の振興を図っています。一方、近年はいちごの新規参入者が県内各地で増加する傾向にあります。



千葉日報での販促活動の様子

こうした新規参入者のいちご連加入は、少ない状況にあります。そこでいちご連では、新規参入者といちご連会員との繋がりを作り、経営発展の助けとなるような新たな取組の検討を始めました。

### 2. これまでの経緯

#### ◆いちご連役員との検討

新規参入者は、経営面や技術面の共通課題について情報交換の場が少なく、先輩農業者の優れた経営を学ぶ機会も得にくい状況にあります。そこでいちご連では新規参入者を孤立させることなく、本県いちご生産の担い手として活躍できるような環境整備に当たり、まずは新規参入者のネットワークづくりに取り組むこととしました。

#### ◆関係機関との情報交換

ネットワークづくりに向けて、現状把握のため、一部の農業事務所と意見交換をしたところ、いちご連に未加入の生産者が多くいることがわかりました。

#### ◆いちご連総会での議決

令和5年7月14日(金)に開催した「通常総会」において、新規参入者のネットワークの構築について協議を行い、いちご連として正式に取り組んでいくことを議決しました。

### 3. 今後の取組について

各地域の農業事務所と協議しながら、加入者を募り、新規参入者のネットワークを構築し、情報交換会を行いたいと考えています。この取組を契機に、生産者同士の協調気運が芽生え、共通課題の解決や経営発展に向けた様々な取組が行われることを期待しています。

いちご連では、多くのいちご生産者が活動に関わることで組織力、発信力を強化し、千葉県のいちご産地が更に発展できるよう取り組んでまいります。



研修会の様子

花植木ニュース



## 千葉県花き振興地域協議会における 学校等での花育体験活動について

千葉県農林水産部 生産振興課 主査  
(千葉県花き振興地域協議会 事務局) 高木 瑞之

生産、流通、小売、行政、文化関係7団体で構成される、千葉県花き振興地域協議会\*では、県産花きの需要拡大を図ることを目的に小中高校生を対象に花育体験活動を実施しています。令和4年度は40校で計46回実施しました。

### 1. 背景

千葉県花き振興地域協議会は、「ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業」(国庫)を活用し、県産花きの需要拡大に向け、小学校等での花育体験活動に取り組んでいます。

花育体験活動は同協議会で平成26年度から取り組んでおり、令和4年度で9年目となります。

### 2. 花育体験活動とは

子どものころから花や緑に親しむ機会を作るとともに、普段の生活に花や緑を取り入れ、将来的な花きの需要拡大を図ることを目的に、当協議会では、以下の実施団体が、学校等に講師を派遣し、フラワーアレンジメントや花壇づくりなどの花育体験活動を実施しています。



花壇づくり体験の様子

体験後に、先生と保護者(高校生は本人)にアンケートをとったところ、回答した保護者の92%が、「体験について楽しそうに話していた」と回答し、体験した高校生の85%が「楽しかった」、「またフラワーアレンジメントをやりたい」と回答しました。また、93%の先生が「今後も花育授業を進めていきたい」と回答しました。

当協議会では、令和5年度も花育体験活動を引き続き実施していく予定です。



小学校で制作したアレンジメント

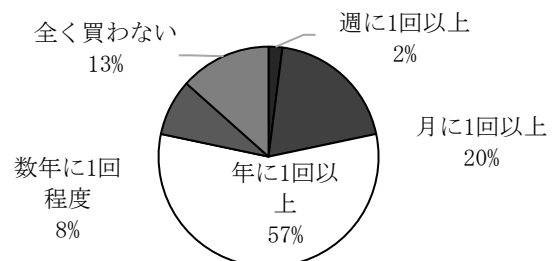
団体名	内容	対象
千葉県花き園芸組合連合会	花壇づくり	小学生等
(一社) JFTD 千葉支部	フラワーアレンジメント	小学生等
千葉県茶華道協会	フラワーアレンジメント	小学生等
(株) 第一花き	生け花	小学生等
高校生フラワーデザイン運営委員会	フラワーアレンジメント	高校生

### 3. 実施方法

令和4年度は教育庁を通じて、県内小中高校等に募集したところ、小学校61校、中学校1校、高校14校、その他7校と、予算を上回る応募があったことから、「花育検討委員会」で協議し、実施団体ごとに実施校等を決定しました。

### 4. 実施結果

令和4年9月から12月にかけて、県内各地の小学校27校、中学校1校、高校12校の40校で計46回の花育体験活動を実施しました。



普段の花の購入頻度(回答:小学生保護者)

\*「千葉県花き振興地域協議会」構成員:  
(公社)千葉県園芸協会、花き園芸組合連合会、植木生産組合連合会、(一社)JFTD千葉支部、(株)第一花き、千葉県茶華道協会、全農千葉県本部、千葉県



## 安房地域における年内どりレタスのべたがけ栽培

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所  
野菜・花き研究室 研究員 曾我 みちる

年内どりレタスにおけるべたがけ栽培法を確立しました。品種に「シスコビバ」及び「アスレ」を用いて保温性の優れた不織布をべたがけすることで、トンネル栽培に比べても収量は変わらず、作業時間も約6割削減できます。

### 1. はじめに

千葉県のレタスの作付面積は462ha（令和3年）で、全国有数のレタス産地です。館山市神戸（かんべ）地区では水稻の裏作としてレタス栽培が盛んで、12月～3月に出荷されており、国の指定産地になっています。しかし、近年は担い手不足により栽培面積が減少しており、規模拡大のための省力化が欠かせない状況です。特に12月はトンネル設置と春どりの定植作業が重なるため、労働力不足が深刻です。そこで、この時期の省力化を図る目的で、保温性の優れた不織布を用いたべたがけ栽培法を確立しました。

### 2. 年内どりレタスのべたがけ栽培の特徴

レタスは、結球表面温度が0℃以下になると氷結し、後にこの凍傷を原因とした腐敗や裂球が発生します。年内どりでは、この凍害を防ぐ目的で12月上旬からトンネル被覆が行われます。このトンネルを透光性、保温性及び適度な通気性を兼ね備えた不織布のべたがけに代替することで省力化を図りました。べたがけ資材として複数種類を検討した結果、十分な保温性を有し、通気性に優れたベタロンDT-550（PVA割繊維不織布、株）イノボックス（旧ダイオ化成（株））を用いることで、収量及び可販率がトンネル栽培と変わらず、結球も詰まりすぎず大きさや形状も良好でした（表）。



べたがけ栽培

### 3. べたがけの設置時間と資材費

トンネルの設置には、支柱立て、フィルムの展張、フィルムバンドによる固定の一連の作業があり、10a当たり10.7時間程度かかります。一方、べたがけ栽培は、不織布をレタス上に展張してUピンで固定する作業となるため、被覆資材の設置に係る作業時間は10a当たり4.0時間とトンネル栽培と比較して作業時間を6割以上削減できます。被覆資材購入に係る初期費用は、ベタロンDT-550がトンネル栽培で使用するビニールフィルムと比較して3割程度増加します。しかし、耐用年数が8年と製品寿命が長く、1年当りに換算すると、資材費はトンネルより4割程度減らせます。

### 4. べたがけ栽培に適した年内どりレタス適品種

べたがけ栽培での使用品種には、なるべく低温伸張性と耐寒性に優れた品種を選びます。令和3年に8品種を供試して比較した結果、「シスコビバ」（タキイ種苗（株））及び「アスレ」（住化農業資材（株））は生育が良好であり、分球などの生育障害及び腐敗病は少ない発生でした。その結果、10a当たりの可販収量が他の品種より多くなりました。このことから、この2品種をべたがけ栽培の適品種として選定しました。

### 5. おわりに

本研究の結果を受けて、省力的な栽培方法として産地での導入がすでに始まっており、今後の普及面積拡大が期待されます。



トンネル栽培

表) 異なる資材で被覆した年内どりレタス収穫物の生育、可販収量及び可販率

試験区	結球重 (g)	球径 (cm)	球高 (cm)	緊度 (g/cm <sup>3</sup> )	可販収量 (kg/10a)	可販率 (%)
ベタロンDT-550	723	16.3	16.9	0.31	3,623	83
トンネル	668	16.9	17.6	0.26	3,460	86

注1) 令和2年9月10日播種、10月5日定植、11月26日被覆、12月14日収穫

2) 1区12株、3反復

3) 供試品種は「アスレ」

4) 栽植密度は畝幅190cm、株間35cm、4条植え（6,015株/10a）

5) 緊度は次式によって求めた

$$\text{緊度 (g/cm}^3\text{)} = \text{結球重 (g)} / \text{結球体積 (cm}^3\text{)}$$

$$\text{ただし、結球体積 (cm}^3\text{)} = 4/3 \pi \times (\text{球径 (cm)} / 2)^2 \times \text{球高 (cm)} / 2$$



## べたがけによる4月下旬どりブロッコリー栽培法

千葉県農林総合研究センター 水稲・畑地園芸研究所  
東総野菜研究室 研究員 鈴木 結花

ブロッコリーの全国的な端境期となる4月下旬に安定出荷が可能なべたがけ栽培法を明らかにしました。定植時期を守ることで、トンネル栽培よりも省力・低コストで栽培が可能です。

### 1. はじめに

千葉県では10月から翌年6月までブロッコリーが出荷されていますが、4月下旬は露地栽培の端境期となり、出荷はほとんどありません。トンネル栽培であればこの時期にも出荷は可能ですが、トンネル設置に労力や資材費がかかることから栽培は限られています。そこで、トンネル栽培よりも簡易なべたがけ栽培による4月下旬どりブロッコリーの栽培法を確立しました。

### 2. 栽培方法

この栽培に好適な品種は「おはよう」((株)サカタのタネ)や「恵麟」(トキタ種苗(株))です。播種は11月下旬に行い、基肥は10a当たり窒素30kg、りん酸30kg、加里30kgを標準とします。95cm幅の穴あきマルチ(2条千鳥、株間30cm)を展張して、1月下旬に定植します。定植が遅れると花蕾が小さく、4月に収穫できないため、定植時期の遵守は重要です(表)。定植直後に「パスライト」((株)ユニチカ)などの不織布を用いてべたがけします。不織布にはマルチ幅+1m程度の規格のものを用意します。生育が進むと株が資材に押さえられ傷つくため、生育に合わせて何度か資材の張りを緩めます。べたがけ資材の除去は、外気温がブロッコリーの生育適温となる3月中旬から4月上旬に行います。除去した後は、コナガなどの病害虫が発生しやすいので、薬剤による防除を徹底することが重要です。

### 3. 品種の使い分け

「おはよう」は花蕾に紫色の着色が発生しにくい品種であるのに対し、「恵麟」は着色が発生しやすい品種です(写真1,2)。紫色の着色は、肥切れによって助長されるため、注意してください。収穫期は「おはよう」が「恵麟」よりも遅い傾向ですが、調製重は「おはよう」の方が重くなります。



写真1「おはよう」の収穫物



写真2「恵麟」の収穫物

### 4. おわりに

本成果は、春どりブロッコリーの栽培が多い、山武、君津地域で活用できることを現地試験で確認しました。この時期は全国的に端境期であり、高価格の販売が期待できますので、ぜひ栽培にチャレンジしてみてください。

表) 定植時期による花蕾の生育の違い(令和3年)

品種	定植日	収穫日	花蕾径(cm)	調製重(g)	L規格以上割合(%)
おはよう	1月26日	4月23日	11.0	440	50
	2月8日	4月28日	9.5	403	25
恵麟	1月26日	4月23日	11.0	410	58
	2月8日	4月28日	8.8	334	4

注1) 調製重は、葉柄が花蕾径に合うようにカットし、花蕾高18cmに切り揃えたものの重量を示した。

注2) L規格以上割合は、花蕾径11cm以上の割合を示した。

注3) 調査は、1区8株(3反復)とした。



## 県産農林水産物の重点プロモーションについて

千葉県農林水産部 流通販売課  
販売・輸出促進室 主査 中村 春菜

県産農林水産物の“イメージアップ”を図ることで県産農林水産物全体の販売力強化に繋げるため、「千葉県の顔」となる品目を核として、消費者をターゲットとした集中的プロモーションを行っていきます。

### 1. 背景

本県の農林水産物は、落花生はもちろん、だいこんやさつまいも、キンメダイなど全国有数の産出額を誇る品目・魚種が多く、温暖な気候や肥沃な土壌、水揚量の多い漁港といった立地条件を生かして首都圏を中心とした大消費地への食糧供給を担っています。

県では、多彩な県産農林水産物の販売力を強化するため、量販店での「千葉県フェア」や県開発オリジナル品種（梨「秋満月」・カラー「Brilliant・Bell」等）のプロモーションを関係機関と連携して実施しているところであり、地産地消に対する意識の高まりも相まって、県産農林水産物の購入意向は増加しています。

一方、消費者アンケートの結果や関係者への聞き取りから、多彩であるがゆえに「千葉と言ったらこれ!」とイメージされる品目はあまりないことがわかりました。そこで、千葉県の顔となる品目（以下「重点品目」）を中心とした集中的プロモーション（重点プロモーション）を行い、プロモーション品目の認知度を向上させることで、

県産農林水産物全体のイメージアップに繋げる取組を実施することとしました。

### 2. 重点品目とプロモーション施策の内容

重点品目には、実需者の意見や他県の事例をもとに、本県を代表する農産物や水産物の中から、「嗜好性」「機能性」「ストーリー性」などにより差別化ができ、県域で生産力強化や産出額向上に繋がる要素を有すると思われる品目を選定し、各品目の方向性に沿って、ターゲットに効率的に訴求できるプロモーション施策を実施していきます。園芸品目では、「日本なし」と「さつまいも」で、イベント開催やメディア発信、プレゼントキャンペーンを実施します。

### 3. 今後の展開

県産農林水産物全体のけん引役として、重点品目の集中的プロモーションを行い、消費者が千葉県の農林水産物を優先して選びたいくなるような“イメージ”を定着させ、県産農林水産物全体の販売力強化に繋げていきます。

重点品目	プロモーション施策の方向性
日本なし	千葉県は土壌や気象条件に恵まれ、江戸時代からの歴史ある産地として長い年月をかけておいしい梨を作る技術が蓄積されてきた産地であり、生産量・栽培面積・産出額ともに全国第1位（令和3年）であることを訴求する。
さつまいも	青木昆陽により江戸時代から栽培が開始され、技術が蓄積されてきた県産さつまいもの歴史的背景と、産地の品質向上に関するこだわりを、「スイーツ」や加工品など、さつまいもブームで増加する需要と併せた「新たなさつまいもイメージ」として訴求する。



## “千葉なし味自慢コンテスト”開催結果

7月29日(土)～7月30日(日)に習志野市のイオンモール津田沼において「千葉なし味自慢コンテスト」を開催しました。今回は県内の18団体から「幸水」120点の出品がありました。

1日目の専門家による厳正な審査により、上位3賞が決定されました。

コンテストに出品された選りすぐりの梨は2日目に即売され、糖度も高く品質の良い「幸水」の美味しさを消費者の皆様にご存知いただく機会となりました。



1日目 審査の様子



2日目 開会式

賞名	所属組合名	氏名
農林水産大臣賞	白井市梨業組合	中嶋 智彦
千葉県知事賞	印西果樹園芸組合	西井 一哉
農林水産省農産局長賞	鎌ヶ谷市梨業組合	飯田 展久

千葉県農林水産部 生産振興課  
園芸振興室 TEL: 043-223-2872

## 「食のちばの逸品を発掘 2024」の参加商品の募集

千葉県と「ちばの『食』産業連絡協議会」では、地域の農林水産業及び食品産業の活性化に役立てることを目的に、県産農林水産物を原料とした加工食品のコンテストを実施します。

今年も、千葉県内に本社、事業所等を置く団体・企業または個人が製造した、千葉県産農林水産物を主たる原料とした加工食品で、量販店、百貨店、インターネット、直売所等での販売により千葉の名産を目指す商品を募集します。応募に当たっては、自薦・他薦\*を問いません。

\*他薦の場合、推薦者は必ず応募者の同意を得ることとし、各推薦者からの推薦は1商品までです。

- ◆応募締切 9月22日(金)(午後5時必着)
- ◆応募方法 県ホームページから応募票をダウンロードし、必要事項を御記入のうえ、電子メールにて応募ください。
- ◆入賞商品への支援 マスメディア等への商品情報の提供や、商談会等の出展支援を予定しています。  
「入賞して商談会時の反応が変わった」など過去の入賞者の方からも高い評価をいただいています。

◆詳細は右のQRコードを読み取り、千葉県の「食の逸品」ホームページを御覧ください。



多くの皆さまからの御応募をお待ちしています！



2023「金賞」  
ちばのこだわりプリン(ピーナッツ味)  
(株式会社 菜の花エッグ)

お問い合わせは  
県流通販売課 販売・輸出促進室  
電話 043-223-3085 まで